

医療を考える会

NPO 法人医療を考える会発行 平成 25 年 12 月 26 日 No.25

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メールアドレス iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp



背筋をのばして

NPO 法人医療を考える会 理事長 相葉計佳

厳しい寒さとなってきましたが、みなさんお変わりありませんか。

厚生労働省の統計により、平成 23 年度国民医療費が 38 兆 5 千億円を超えることが明らかにされました。高齢化が進む中で医療費はふくらみ続け、われわれ国民の負担も年々増え続けています。

問題は、この医療費が本当に必要な医療費なのかという事です。「薬を止めれば病気が治る」「薬漬け、検査漬けでいいのか」という医療関係者の発言は、年々増え続けています。

23 年度医療費では、がん治療（新生物治療）に 3 兆 6381 億円の医療費がかかっています。しかし、このがん治療が本当に必要な治療なのでしょうか。ご存知の方も多いと思いますが、慶応大学医学部の近藤誠医師は、放射線科でがん治療に携わる医師でしたが、手術や抗がん剤治療は、患者の苦しみを大きくするだけで治療効果のないことを、沢山の著作を発表し訴え続けています。

「がんが恐ろしいのではない。がん治療が恐ろしい」手術や抗がん剤の治療を行わず、患者の状況により緩和治療が行われればがんは怖い病気ではない、近藤医師が診療にあたった患者の方々の結果から、提案しているのが「がん放置療法のすすめ」です。

社会福祉法人老人ホーム「同和園」付属診療所所長、中村仁一医師も近藤医師と同じように、がんに対する無用な攻撃が患者の痛みや苦しみを作り出す、と緩和治療をすすめています。

「がんに対しては何の手出しもしない八十例前後のがん患者を経験させてもらい、がんであっても、最後まで痛みで苦しまず穏やかに死ぬんだということを確認している」といっておられます。

薬や手術の副作用が患者の新たな苦難を作り出す事を、医療に携わった医師が指摘しているように、現代医療の慢性疾患への対応はいま再検討を迫られていると思います。

西洋医療とは異なり、人それぞれの自然治癒力を強化することを基本とする東洋医療、漢方、はり、灸やあん摩マッサージ指圧の治療、もっともっと活用されなければならない社会状況です。

とくに、はり、灸やあん摩マッサージ指圧の治療は、健康保険から排除され患者さん自身が選べない治療とされているのが問題です。大阪で結成された「健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける国民の会」の「はり・きゅう・あん摩・マッサージ・指圧治療を一般医療と同様に健康保険証の提示で受診できるようにして下さい」との署名運動は重要です。

われわれ一人ひとりが、選べない治療が残る時代遅れな制度改善のために、署名運動を広げていきましょう。生活保護や高齢者医療に冷たいかぜが吹きつける政治状況ですが、患者が選べるための医療へ、弱者をいたわる支え合う社会へ、背筋をのばしてすすみましょう。

野外パーティーで 署名活動

11月20日（日）川崎市多摩区で毎年恒例の野外パーティーが行われ、地元のマッサージの先生がマッサージのコーナーを設けていることから署名活動もその場でやっではどうかと声掛けがあり急遽施術者の先生方を含めて8名が参加することにしました。

好天の下、入り口近くにテーブルといすを用意してNPOののぼりを立て受付とマッサージ希望者から10分500円でマッサージを開始。



バザーや地元の野菜・その場で揚げたさつまいものスティック・やきそば・似顔絵コーナー他子供たちの広場、等々にぎやかに売り買いする中にチラシと署名用紙を持ってまわりました。

署名活動ができました。

「いつもきてマッサージをしてくれている先生は今日来てる？」と手の空いた方が腰や肩などの施術を求める方はその良さを実感されていました。

気軽に応じてまわしてくださるグループもいて署名慣れしている方もいました。

「医師の同意があった方が安心。西洋の医療と東洋の医療と両方受けられると良い」など会話をすることもあり、大変有意義な活動となりました。

施術料をNPOに¥8500円カンパしていただき署名は84筆していただきました。こんな場を紹介していただければ喜んで出張したいと思いました。

2013年12月15日現在の署名数 合計3,358筆 カンパ ¥50,200円 です100万の署名には会員の知恵と資金のご協力を引き続きよろしくお願いします。ポスター・チラシ・ホームページ作成等々に必要としています。来年がよりよい年になることを願ってがんばりましょう。

山口 記

関西の報告

大阪の加賀屋商店街にて署名活動

健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける国民の会事務局

11月9日(土)、総勢12名で、昼過ぎの1時間程で82筆の署名が集まりました。当日は患者さんらが顔馴染みの店主さんとお声をかけていただき、みるみる欄が埋まっていく様は圧巻でした。

ご署名にご協力頂いた皆さん、活動された皆さん、ありがとうございました。



新たな気持ちで方針の実現を

「NPO 法人医療を考える会」第9回総会報告

11月24日午後、「NPO 法人医療を考える会」の第9回総会が上原社会教育館で行われました。司会は、山口充子氏により開始しました。はじめに、副代表理事山西俊夫氏より挨拶があり、「一步一步、皆さんと進めていきましょう。」と、話されました。

次に来賓挨拶として、高橋養藏一般社団代表理事より、「11月はじめ、佐久市の水嶋丈雄先生の講演を聞く機会がありました。先生の漢方、鍼灸を用いた手広い活動に驚きました。パーキンソン病の患者さん方にとどのように使って効果を上げてきたか勉強になりました。今、私達のやっている東洋医療を広めていく時です。大いに自信をもって進めていきましょう。」と話されました。

「健康保険ではり・灸・マッサージを受ける国民の会」会長山村博文氏（大阪）よりのメッセージ。平田啓二氏により代読。

「協同組合兵庫県保険鍼灸師会」理事長藤岡東洋雄氏よりのメッセージ。久下勝通氏が代読。

宮原哲朗弁護士より挨拶。「皆さん。今日ここで、意思統一して今やりつつある100万人署名の取り組みを超党派等で広く運動を起こしていき、今の医療を改めさせていって下さい。業界の団体だけでなく、患者、国民の視点を忘れないで力を合わせてやっていって下さい。この「会」の発展について、できるところで協力していきたいと思います。今、国会で審議されている「秘密保護法案」は、もし決められるようなことになったら、国民は、民主主義の根幹の知る権利を奪われ、正しい選択が出来にくく

なるかもしれません。当たり前の良いことを広めていくのに、社会で起きている、正確な情報を知ることは欠かせません。以前、アメリカ軍艦船の核密約のことが、後に明らかにになりましたね。皆さん一緒によく考えて、反対していって下さい。」

相葉計佳理事長より挨拶。「私は医食同源で元気になってきました。私達の課題を引き続き実行していきたい。よろしくおねがいます。」

次に議長選出にのっとり、瀬川信幸氏が選ばれました。今回の総会成立について報告。正会員212名、出席者16人、委任状提出101人で規約上成立している。



24年度の活動報告について、山西俊夫副代表理事より。（この報告書は事前に、会員へ配布されていますので、詳しいことは省略します。）

活動の成果について。

- ① 長時間かけて「東洋医療について一問一答」の小冊子を完成させた。又、リーフレットも作成した。これからの運動のツールにな

っていく。

- ② 当会のホームページを立ち上げた。
- ③ 「健康保険ではり・灸・マッサージを受ける国民の会」が6月9日、結成された。当会は団体加盟し、100万人署名運動を展開することになった。
- ④ 井上英夫金沢大学客員教授の講演会を行い、「患者の健康権から、かかりたい医療を選べるような制度に」と運動の理論づけを学習出来、署名運動、東京での発足の日となった。

その他、レジメに沿って報告あり。(この1年忙しい中を、よく生真面目にやってきたなど実感。)

24年度収支報告、山西力氏より報告あり。

25年度活動計画案、山西俊夫副代表理事より報告あり。

- 24年度の実績を踏まえて、100万人署名をすみやかに展開していかれるように。
- 立法府への請願活動を積み重ね、東洋医療への健康保険適用を。
- 患者の視点に立ち、行政の東洋医療への格差を正していく。
- 会員相互の親睦、他団体及び地域との交流を継続していく。

*詳しくは、各会員に送られている、計画予定等を見て下さい。

会員数は横ばいである。良いことを広げていく



のは自然なこと。私達の願いが実現するよう、

周りの人々へ声かけを。

25年度予算案、山西力氏より提案。

質議では、特に異議も無く、以上の提案は採択されました。現在までの署名数の到達の質問に対して、東京では約3500筆、全国では約15000筆集まっているとの報告がありました。私達の目的を達成するには、署名に取り組む人を増やすことが必要。各自、自分の特徴を生かし、一回り、二回り広げていかれるようにと話されました。

講演会「薬食同源でいつまでも健康に」

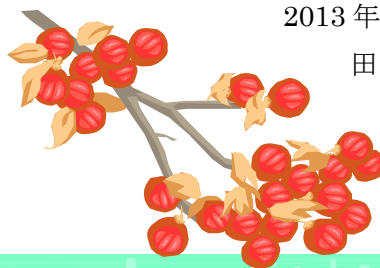
日本漢方協会学術委員、緒方勝行先生よりのお話です。講師紹介は、品川道子氏にいただきました。レジメに沿って、漢方薬、民間薬の違い、使い方など。

- 生薬とは、薬効のある自然物のこと。漢方薬は、漢方的な診断のもとに特定の症状に治療薬として利用される。治療薬として効果的であるように、原則として複数の生薬が一定の比率で調合され、この生薬の種類と量の比率は、長年の経験と膨大な臨床実験を経て、最もいい効果が得られるように定められ、継承されてきたもの。
- 例えばミミズ(地竜)は、味もないが、高熱時利用するとよく効く。又血栓溶解酵素(ルンブルキナーゼ)が入っており、血栓にもよく効く。今使っているチョークは石膏からつくられ、この冷やす働きは、漢方薬の白虎湯等に利用されている。
- 解表・発汗には、葛根・麻黄・桂枝・大棗(なつめ)等、感冒やインフルエンザに用いられる。
- 民間薬は効果の言い伝えはあっても、漢方薬のような病との治療に対する考え方の体系はない。
- ヤマイモ・ジネンジョ・ナガイモ等(むかごもよい) 滋養、強壯、下痢、食欲増進等の効能あり。脾、肺、腎を強め、虚弱児や疲労回復大病後の回復等に用いる。

- どくだみーはれもの解毒に用いる。はれものに生の葉、コンロの下に入れトロッとしたら患部にはっておく。蓄膿症には鼻の中へ入れる。水毒・化膿体質には、煎じてお茶代わりに飲ませる。
- げんのしょうこー濃く煎じて温かいのを飲むと下痢止めになる。淡く煎じて冷やして飲むと便秘によい。
- ハトムギー働きは、利尿作用・関節痛・間接浮腫をとる。イボ・にきび・腫瘍をとる。(外側にできたもの) 健脾作用、慢性的な下痢に用いる。弱い人は、当归芍薬剤+ハトムギ。中間症、桂枝茯苓丸+ハトムギというように。ハトムギご飯もよい
- クコ(ナス科)ー効能は、脂肪肝、高血糖、コレステロールを下げる。血を増やし、眼の病気によい、老化や衰弱の諸症状に。クコ茶は、動脈硬化、高血圧の予防薬に用いられる。仙人は飲んでいた。(地仙丹) 延命、軽身(年とっても身軽に動けるように)
- 生姜(しょうが)ー効用は発汗作用。悪寒発熱などの感冒症状によく用いる。健胃作用、嘔吐や食欲不振(桂枝湯、葛根湯など)、逆流性食道炎にも用いる。
- 講演の後、質問が多くくださった。中身の濃い健康に役立つお話を聞いてよかったとの思い強し。
- 閉会挨拶、田中榮子副代表理事よりあり。その後同会場で、短時間懇談を行った。
*当日は行事のダブりが多かったためか参加者は少なめ(19人)でしたが、東洋医療へかかり易い制度づくりをいろいろと工夫をこらして着実に進めていこう、という意気込みが見られました。参加された皆様、事務局の皆様、ありがとうございました。

2013年11月28日

田中榮子 記



平成24年度活動報告

副代表理事 山西 俊夫

平成24年度は下記の通り、当会として画期的な活動実績を挙げる事ができました。

1. 理事会活動は9回、1ヶ月半に1回代々木事務所で開催しました。
2. 学習会、講演会は7月14日(日) 井上英夫金沢大学客員教授を講師にお招きして「健康権について」家庭クラブ会館で開催し47名が出席しました。
3. 会報は第22、23、24号の3回発行しました。
4. レクリエーション活動は4月7日(日)に小石川植物園で薬草見学会を予定しましたが、今年も天候に恵まれず、残念な

がら2年続けて中止となりました。

5. 他団体との交流は、
2月17日(日) 千駄ヶ谷社教館祭りに会員12名が参加しました。今年は体験コーナーにマッサージチェアを持ち込み有効活用ができました。
5月19日(日) (社)鍼灸・マッサージ師会第10回定期総会に出席しました。
6月9日(日) 「健康保険ではり・きゅう・マッサージを受ける国民の会」結成の集いが新大阪で開催され、高橋、山西が参加し、当会として会員に加入しました。百万人署名運動を全国規模に展開することを決議しました。
6. 各界への要請行動は、11月22日(木)岩下先生が患者さんと再審査請求された件の社会保険審査会公開審理(於厚生労

働省 18F 社会保険審査会審理室) にオブザーバーとして出席しました。今回併給は実現できませんでしたが、各委員の発言内容から東洋医療に対する理解と評価が確実に高まっている空気が読み取れ、再審査請求活動を前向きに捉えて患者と施術師の協力で今後も継続する必要があることを痛感しました。

6月都議選、7月参議院選挙候補者に対して東洋医療に対するアンケート調査を実施しました。67 通中回答者 5 名、内 2 名より支援表明がありました。

7. その他では、

①東洋医療に関するチラシ、一問一答の小冊子を完成し当会の運動のツールが完成。

②当会のホームページを 6 月に立ち上げました。

次に今年度の私たちの活動をレビューした

時、課題として次の 3 点が挙げられます。

①患者の会員数が横ばいで伸びていないので、新会員加入のための PR が必要であること。

②理事が仕事との兼務で忙しく理事会の活性化が不足していた。

③国民へ正しく東洋医療を普及する活動の一層の強化と継続が必要なこと。

以上



平成 25 年度の活動計画

平成 24 年度の活動の成果は、次の 2 点に集約できると思います。

①当会の活動のツールであるパンフレットを印刷しホームページを立ち上げたこと。

②当会として「国民の会」結成に参加し、関西その他の仲間と百万人署名運動をスタートしたこと。

以上の実績を踏まえて、今年度は百万人署名運動の全国的な展開、立法府への請願活動の強化を計り、東洋医療への健康保険適用実現をめざします。同時に患者の視点に立ち、行政の東洋医療内部に対する格差を糾す運動を展開します。会員相互の親睦、他団体および地域との交流を深め、魅力のある会にすることで新たな会員の加入をめざします。

具体的な活動

1. 会員相互の親睦、学習会を通じて東洋医療への理解を拡げます。

定期総会 11 月 1 回 11/16(日) または 11/30(日) 予定

理事会 隔月 6 回以上

会報 3 回以上

講演会 1 回 7/13(日) 予定

レクリエーション 1 回 5/11(日) 予定

2. 他団体、地域との交流・連携を深め、東洋医療への理解を深める運動を継続します。

千駄ヶ谷社教館祭りへの参加 2/16 (日)

民医連、各党議員団、他 随意

3. 国民の会(関西)、関東の同業者および他団体との連携を強化し、百万人署名の国民運動への展開をめざします。

以上

平成 25 年度の理事名簿

今期の理事は 2 期目を迎えます。役割分担は前期と同じく下記のとおりです。

代表理事 相葉 計佳
副代表理事 田中 榮子、山口 充子、山西 俊夫
事務局 山口 充子
広報 平田 啓、山西 俊夫、久下 勝通(アドバイザー)
組織 高橋 養蔵、田中 榮子
企画 瀬川 信幸、武井 百代
レクリエーション 岩下 幸卯、木幡 久美子
監事 松原 幸靖



施術師 8 名、患者 5 名計 13 名の陣容ですが、引き続き今期一年、会の発展のために精一杯頑張りますので、会員皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

以上

無駄使いは軍事費とはっきり言われた

「感動した井上先生のお話」 星山美保子

世の中には、いろんな素晴らしい人がいます。井上先生もその一人だと思います。先生は私達国民が安心して暮らすため、制度を良くするためには現実に国が何を行っているか、冷静に見るように話されました。国は財政が厳しいからと、福祉医療等の中身を悪くしてきています。先生が一番の無駄使いは軍事費だとハッキリ言われました。このことは、マスコミでもタブー視されているのです。

私は鍼灸治療を時々受けてきました。健康を保つには必要でした。鍼灸等、東洋医療の制度を良くすること、これは国民の基本的権利から言っても、当然のことだとわかりました。この制度が良くなったら東洋医療にかかるのをあきらめていた人々も、どんなに助かることでしょう

身近な食材も薬として活用する漢方の知恵

緒方先生講演

日本漢方教会学術委員、緒方先生のお話は、食材についての大変興味深いお話で、少し時間が足りず、終わりのほうが急ぎ足になったのが残念でした。

われわれが日ごろから利用しているなじみの深い、やまいも、はとむぎ、クコ、生姜（しょうが）についてのお話でした。医食同源、薬食同源といわれるように、身近な植物の性質、植物と人間の身体の関係についての深い知識により、食べ物として利用し、また、薬としても利用するのが漢方です。

やまいもを麦飯にかけて食べる「むぎとろ」が浅草の名物として定着していますが、「むぎとろ」と聞くと親しみやすいご馳走の感じに引き寄せられます。

このやまいもが「山薬」の名称で活用され、数種類の植物などと組み合わせられ、新しい力を引き出す漢方薬になっていることに驚きました。

高齢者の老化防止、強壮薬として多用される八味地黄丸は、山薬（やまいも）に茺萸（山ぐみ）、地黄（ゴマノハクサ科）、茯苓（きのこ）、沢瀉（くわい）、牡丹皮（ぼたん）、桂枝（ニッキ）、附子（トリカブト）を配合した漢方薬とのことです。「やまいも」や、やまいもの実である「むかご」には、滋養、強壮の力があり薬膳や民間薬としても利用されているということです。

植物の葉、幹、実、根あらゆる部分を利用する知識、植物の配合により新しい力を引き出し、それを活用する知識、漢方の考え方や知識に改めて感心しました。生活の中で季節の食べ物についてもっと勉強が必要ですから、尾形先生には引き続いてお話をうかがいたいと思いました。

食生活改善というと何を考えるでしょう。栄養バランスの良い食事、ビタミンが大切、タンパク質が重要、カルシウムが不可欠などなど、栄養

について学校教育で教えこまれていますし、あふれるような宣伝が行き渡っています。食生活改善というと、なにか良いといわれる物を加えることを考えるのではないのでしょうか。

しかし、高度成長以後の高齢化社会は不足よりも過剰が問題です。過ぎたるは及ばざるごととして高血圧や糖尿病など慢性疾患の多くは過剰な食べ方が原因です。特に高齢者は、量より質を考えなければならない時代です。

食生活改善というとき「身土不二」「養生」など、東洋医学の考え方の基本から食生活を見直すことが大切では

ないのでしょうか。身土不二とは、「人と土は一体であるという捉え方です。「人

の命と健康は食べ物で支えられ、食べ物は土が育てる。故に、人の命と健康はその土と共にある。」

このことから、その土地でその季節に収穫できる食べ物が生命を養う力を持っており、春には春芽生える草木の中に、秋には秋に実る穀物や果実の中に、冬は生命力を蓄える根の物に命を養う力があるのです。自然から疎外された大都市のなかで暮らしていると見失いがちですが、自然と調和をする再生可能な社会へ大切な視点と思います。

生きた食べ物は日々変化します。栄養価のある食べ物といっても、長い時間をかけて運搬のために農薬漬けにして変化を止めた食べ物には命を養う本当の力はないでしょう。また、大量生産だけを目的にした遺伝子組み換え食品は、まだまだ本当の安全性は確認されていません。（久下勝通）



千駄ヶ谷社教館まつりのお知らせ

マッサージのボランティアと署名の呼びかけにご協力を

平成 26 年 2 月 16 日（日）千駄ヶ谷社会教育館にて体験マッサージをおこないます。朝の 9:30 集合で 16:30 解散になります。マッサージのボランティアを行いつつ、100 万署名の呼びかけも実施します。ぜひお越しください。1 時間でも 2 時間でも時間の許す範囲で結構です。来て下さる先生は 2 月 14 日までに事務所にご連絡ください。お待ちしております。

レクリエーションのお知らせ

大好評だった緒方先生の講演会を受けまして、平成 26 年 5 月 11 日にレクリエーションとして、緒方先生の小石川植物園探索を予定しています。

今年 4 月 17 日に計画されていた小石川植物園植物見学が、悪天候の天気予報のため中止となりました。しかし当日は晴天、新緑は輝き、数知れぬ花が咲き乱れるすばらしい植物園でした。

今年こそ、歴史ある植物園で緒形先生のお話がうかがえればと思います。この植物園は日本でもっとも古い植物園であり、また、世界でも有数の歴史を持つ植物園とのことです。

約 320 年前の 1684 年に徳川幕府が設けた「小石川御薬園」がこの植物園の前身で、明治 10 年、東京大学が設立された直後に附属植物園となり一般にも公開されてきました。享保 7 年 12 月（西暦 1723 年）に山本周五郎の小説「赤ひげ診療譚」で有名な小石川養生所（貧しい庶民救済の診療所）が設けられ歴史がある植物園です。



（4 月 17 日に咲いていた花、ほんの一部です）